3 定数係数の2階線形微分方程式

微分方程式

$$y'' + ay' + by = f(x)$$
 (a, b は定数)

を定数係数の 2 階線形微分方程式という。本章ではこの微分方程式の解法を述べる。この形の微分方程式は振動の問題,電気回路の問題でよく現われる応用上重要な方程式である。この方程式の右辺の f(x) が 0 である場合を同次の場合という。3.1 節では同次の場合の一般解を構成する。微分方程式は一般解以外の解をもちうることは前に述べたが,ここで考えている場合では一般解以外の解がないことを 3.2 節で示す。3.3 節では同次でない場合の一般解の求め方を説明する。3.4 節では応用に関連した事項について述べる。a,b は実数とする。

3.1 同次の場合 (I)

次の微分方程式を考える:

$$y'' + ay' + by = 0 \tag{1}$$

 $y_1(x),y_2(x)$ が (1) の解であれば、 c_1,c_2 を定数とするとき

$$c_1 y_1(x) + c_2 y_2(x)$$

も(1)の解である. そのわけは

$$(c_1y_1 + c_2y_2)'' + a(c_1y_1 + c_2y_2)' + b(c_1y_1 + c_2y_2)$$

$$= c_1(y_1'' + ay_1' + by_1) + c_2(y_2'' + ay_2' + by_2)$$

$$= 0$$

となるからである.

ここで, (1) の解を求めるため, p を定数として

$$y = e^{\rho x} \tag{2}$$

とおいてみる. これを微分して(1)に代入すると

一般解は、2つの特殊解か、かかいは、その2つの式で、チェ C, J, Cx)+ C, J, (x) で表わせる。といるかな方法を用いても良いので、2つの特殊解を見つければ、一般解が得られる。

$$(\rho^2 + a\rho + b)e^{\rho x} = 0$$

となる. したがって, ρが2次方程式

$$\rho^2 + a\rho + b = 0 \tag{3}$$

の根であれば、(2) は(1) の解になっている。(3) を(1) の特性方程式という。

(3) の根は

$$\rho_1 = \frac{1}{2} \left(-a + \sqrt{a^2 - 4b} \right), \quad \rho_2 = \frac{1}{2} \left(-a - \sqrt{a^2 - 4b} \right)$$
(4)

である、ここで場合を三つに分けて考えよう:

- i) (3) が相異なる実根をもつ $(a^2 > 4b)$
- ii) (3) が互いに共役な複素根をもつ $(a^2 < 4b)$
- iii) (3) が実重根をもつ ($a^2 = 4b$)
- i) このとき, c_1 , c_2 を定数として

$$c_1 e^{\rho_1 x} + c_2 e^{\rho_2 x}$$

が(1)の解である.

ii) この場合は i)とちがって、 ρ_1, ρ_2 が実数ではない。実数値関数の解を求めるため、(4) を

$$\rho_1 = p + qi, \quad \rho_2 = p - qi$$

$$(p = -(1/2)a, \quad q = (1/2)\sqrt{4b - a^2})$$
(5)

と書く.

$$e^{\rho_1 x} = e^{(p+qi)x} = e^{px} (\cos qx + i \sin qx)$$

 $e^{\rho_1 x} = e^{(p-qi)x} = e^{px} (\cos qx - i \sin qx)$

であるが、 $e^{\rho_1 x}$ 、 $e^{\rho_2 x}$ が (1) の解であるから

 $(1/2)(e^{\rho_1 x} + e^{\rho_2 x}) = e^{px}\cos qx$, $(1/2i)(e^{\rho_1 x} - e^{\rho_2 x}) = e^{px}\sin qx$ はいずれも (1) の解である.

したがって、 c1、c2 を定数とするとき

$$e^{px}\left(c_1\cos qx+c_2\sin qx\right)$$

は(1)の解である.

iii) この場合は

$$\rho_1 = \rho_2 = -(a/2)$$

であるから $e^{-(a/2)z}$ は(1)の解である。 $e^{-(a/2)z}$ の定数倍ではない解を求める

← 2つの特殊解(Pix、ePix、一般解を得た。

← 2つの特殊解 ePX cosgx, ePXsingxで、 一般解を得た。 ため

$$y(x) = z(x)e^{-\frac{a}{2}x} \tag{6}$$

とおいてみる.

$$y' = z'e^{-\frac{a}{2}x} - \frac{a}{2}ze^{-\frac{a}{2}x}, \quad y'' = z''e^{-\frac{a}{2}x} - az'e^{-\frac{a}{2}x} + \frac{a^2}{4}ze^{-\frac{a}{2}x}$$

であるから

$$y'' + ay' + by = e^{-\frac{a}{2}x} \left(z'' + \left(b - \frac{a^2}{4} \right) z \right) = e^{-\frac{a}{2}x} z''$$

$$e^{-\frac{a}{2}x}\left(c_1+c_2x\right)$$

が(1)の解であることがわかった。

以上で次の事実が示された.

c1, c2を任意の定数とする.

$$a^2 > 4b$$
 のとき $y(x) = c_1 e^{\rho_1 x} + c_2 e^{\rho_2 x}$ (7)

$$a^{2} < 4b$$
 のとき $y(x) = e^{px}(c_{1}\cos qx + c_{2}\sin qx)$ (8)

$$a^2 = 4b$$
 $0 \ge 3$ $y(x) = e^{-\frac{\alpha}{2}x}(c_1 + c_2x)$ (9)

と定められたy(x) は(1) の一般解である。ただし、 ρ_1, ρ_2 は(4) でp, qは(5)で与えられるものとする.

例題1 次の方程式の一般解を求めよ.

i)
$$y'' + 4y' + 3y = 0$$

ii)
$$y'' + 2y' = 0$$

iii)
$$y'' - 2y' + y = 0$$

iv)
$$y'' + 4y' + 5y = 0$$

解 i) $y = e^{\rho x}$ とおけば $\rho^2 + 4\rho + 3 = 0$, ゆえに $\rho = -1$ または $\rho = -3$. ゆえに一般解は

$$y = c_1 e^{-x} + c_2 e^{-3x}$$

ii)
$$y = e^{\rho x}$$
 とおけば $\rho^2 + 2\rho = 0$. ゆえに $\rho = 0, -2$. 一般解は $y = c_1 + c_2 e^{-2x}$

iii)
$$y = e^{\rho x}$$
 とおけば、 $(\rho - 1)^2 = 0$. ゆえに $\rho = 1$ (2重解). 一般解は

 $v = x \ge 1$ た $x e^{-\frac{a}{2}x}$ が (1) の解となる。これで c_1 , c_2 を定数としたとき $e^{-\frac{a}{2}x}$ ($c_1 + c_2 x$)

覚えても良いが、一等き出せるようにしておくと良い。

$$y = (c_1 + c_2 x)e^x$$

iv)
$$y = e^{\rho x}$$
 とおけば $\rho^2 + 4\rho + 5 = 0$. ゆえに $\rho = -2 \pm i$. 一般解は $y = e^{-2x} (c_1 \cos x + c_2 \sin x)$

例題2 α , β を与えられた定数とする. (1) の解 y(x) で

$$y(0) = \alpha, \quad y'(0) = \beta \tag{10}$$

をみたすものを求めよ.

解 (7), (8), (9) の c_1 , c_2 を(10) がみたされるように定めることができ ればよい.

 $a^2 > 4b$ のとき、(7) と(10) によって

$$c_1 + c_2 = \alpha$$
, $c_1 \rho_1 + c_2 \rho_2 = \beta$

となる. これを c_1 , c_2 について解けば

$$c_1 = \frac{\alpha \rho_2 - \beta}{\rho_2 - \rho_1}, \quad c_2 = \frac{\alpha \rho_1 - \beta}{\rho_1 - \rho_2} \tag{11}$$

このように c_1 , c_2 を定めれば(7) のy(x) は(10) をみたす.

 $a^2 < 4b$ のときは、(8) と(10) によって

$$c_1 = \alpha, \qquad c_2 = (\beta - p\alpha)/q \tag{12}$$

とすればよい.

 $a^2 = 4b \text{ obsit}$, (9) \geq (10) k

$$c_1 = \alpha$$
, $c_2 = \beta + (a/2)\alpha$

とすればよい.

方程式(1)に対して、(10)の形の条件(一般には $y(a) = \alpha$ 、 $y'(a) = \beta$ の 形)を初期条件といい、上の例題の形の問題を初期値問題という。

問 次の微分方程式の解で後記の条件をみたすものを求めよ.

i)
$$y'' + 3y = 0$$
,

$$y(0) = 0, \quad y'(0) = 1$$

ii)
$$y'' - 4y' + 4y = 0$$
, $y(0) = 1$, $y(1) = 1$

$$y(0) = 1, \quad y(1) = 1$$

iii)
$$y'' + y' - 6y = 0$$
,

iii)
$$y'' + y' - 6y = 0$$
, $y(0) = 1$, $\lim y(x) = 0$

iv)
$$y'' - 7y' + 10y = 0$$
, $\lim_{x \to \infty} y(x) = 0$

P59~621本省略

とおけば、(5) はみたされる。このとき、(4) は

$$y(x) = A(-\sin\sqrt{c} \ a\cos\sqrt{c} \ x + \cos\sqrt{c} \ a\sin\sqrt{c} \ x)$$
$$= A\sin\sqrt{c} \ (x - a) = A\sin\left(m\pi \frac{x - a}{b - a}\right)$$

となる。これで十分性が示されたと同時に、(3)が成り立つとき"恒等的に0" ではない解の形が定められた. □

問 上の例題 6 において、y(a) = y(b) = 0 の代わりに次のそれぞれの条件をおいた 場合のcのとり得る値と、それらに対応するy(x)を求めよ、

i)
$$y'(a) = y'(b) = 0$$
 ii) $y(a) = y'(b) = 0$

ii)
$$y(a) = y'(b) = 0$$

iii)
$$y(a) = y(b), y'(a) = y'(b).$$

3.3 同次でない場合

微分方程式

$$y'' + ay' + by = f(x) \tag{1}$$

の一般解を求めよう.

 $y_1(x)$, $y_2(x)$ を次のように定める:

 $a^2 > 4b$ のとき

$$y_1(x) = e^{\rho_1 x}, \qquad y_2(x) = e^{\rho_2 x}$$
 $a^2 < 4b \text{ Obs}$

$$y_1(x) = e^{\rho x} \cos qx, \quad y_2(x) = e^{\rho x} \sin qx$$
 $a^2 = 4b \text{ Obs}$

$$y_1(x) = e^{-\frac{a}{2}x}, \qquad y_2(x) = xe^{-\frac{a}{2}x}$$
(2)

ただし、 ρ_1, ρ_2, p, q は 3.1 節の (4)、(5) の通りとする。このとき 3.2 節、例 題5によって、微分方程式

$$y'' + ay' + by = 0 \tag{3}$$

の解は

$$c_1 y_1(x) + c_2 y_2(x) (4)$$

で与えられる.

もし (1) の一つの解 $\varphi(x)$ が見いだされたならば、(1) の任意の解 y(x) は、 c_1,c_2 を定数として

$$y(x) = c_1 y_1(x) + c_2 y_2(x) + \varphi(x)$$

と書かれる。そのわけは、 $y(x) = z(x) + \varphi(x)$ とおけば

$$z'' + az' + bz = y'' + ay' + by - (\varphi'' + a\varphi' + b\varphi)$$

= $f(x) - f(x) = 0$

となってz(x) が(3)をみたすからである.

次に、(1) の一般解を見いだす方法を説明する。同次形方程式(3) の解(4) において、 c_1,c_2 を関数と考え

$$y = c_1(x)y_1(x) + c_2(x)y_2(x)$$
 (5)

が(1)の解となるように $c_1(x)$, $c_2(x)$ を定めてみよう:

(5) を微分すると

$$y' = c_1(x)y_1'(x) + c_2(x)y_2'(x) + c_1'(x)y_1(x) + c_2'(x)y_2(x)$$

となるが、ここで c_1, c_2 は

$$c_1'(x)y_1(x) + c_2'(x)y_2(x) = 0 (6)$$

をみたすものとする. このとき

$$y' = c_1(x)y_1'(x) + c_2(x)y_2'(x)$$

であるが、これをもう一度微分すれば

$$y'' = c_1(x)y_1''(x) + c_2(x)y_2''(x) + c_1'(x)y_1'(x) + c_2'(x)y_2'(x)$$

となる. この場合, (5)が(1)の解であることと

$$c_1'(x)y_1'(x) + c_2'(x)y_2'(x) = f(x)$$
(7)

とは同等である.

(6), (7)から

$$c_{1}'(x)(y_{1}(x)y_{2}'(x) - y_{1}'(x)y_{2}(x)) = -f(x)y_{2}(x) c_{2}'(x)(y_{1}(x)y_{2}'(x) - y_{1}'(x)y_{2}(x)) = f(x)y_{1}(x)$$
(8)

ここで

$$\alpha = \begin{cases} \rho_2 - \rho_1 = -\sqrt{a^2 - 4b}, & a^2 > 4b \quad \emptyset \succeq \mathring{\Xi} \\ q = (1/2)\sqrt{4b - a^2}, & a^2 < 4b \quad \emptyset \succeq \mathring{\Xi} \\ 1, & a^2 = 4b \quad \emptyset \succeq \mathring{\Xi} \end{cases}$$
(9)

とおけば、 $y_1(x)$ 、 $y_2(x)$ の定義から容易にみちびかれるように

もし、タ(な)を見っけられたら、同次形より4ag4bb=0の解をするて、左の一般解みい直ちにすらまる。 いつも見っかるとは下限らないは下記の方法で、タ(な)を得らいることかかる。

f(x)の形をのは、の形が美人以していることからいことが考り ことい着りし、つぎの表のよういf(x)を仮定して、これを与式に代入することいより、各係数を示さめる。

9cz)073
A+ Bear
A cosax+ Bsinax
edx (Acospa+Bsingx) 多项式

P65~71 は省略

数学1及び演習(常微分方程式) 演習問題(4回目その2)

(テキスト該当ページ:pp.55~71)

(今回の演習のうち, 5)~8)は, p.71問題5と同じです. 章末に解答が掲載されています)

(1) 次の常微分方程式の一般解を求めよ.

4)
$$y'' - 2y' + y = e^x \cos x$$

5)
$$y'' + 3y' + 2y = 4x^3$$

6)
$$y'' - 2y' + y = 2e^x$$

7)
$$y'' + 2y = x + 2\sin x$$

8)
$$y'' + y = e^x + 3\cos x$$

9) 特殊解を類推する方法を用いて次の微分方程式の一般解を求めよ

(a)
$$y'' - y' - 2y = \cos x$$

(b)
$$y'' - 3y' + 2y = (1 + 2x)e^x$$

10)
$$y'' - y' = x^2$$

$$11) y'' - 3y' + 2y = e^{3x}$$

12)
$$y'' + 3y' + 2y = \cos x$$

13)
$$y'' + y' - 2y = 2x^2 - 3x$$

——— 注 意 ———

演習問題の答案をpdf形式でアップロードし、提出してください. 学生番号、氏名を記入することを忘れないで下さい